

# 稲穂北に輝く にぎりめし



令和3年度 穂北中学校だより

3月号

穂北中HP

校長

伊東 泰彦



## 学校の「新しい顔」ができました！

本校のシンボルツリー・玄関前のフェニックス庭園に「生徒会マンダラ」を掲げる看板を設置し、新たな穂北中の顔ができました。本校の生徒会では、毎年のスローガンを漢字一文

字で作成しており、今年それは「挑」です。ただし今年度は、大谷翔平選手で有名になった思考ツール「マンダラ」チャートを使って、真ん中に入れる文字を決めていきました。この看板は、表面のコーティングを毎年更新し、目標を掲示していきます。



## 全国中学生マイプロで最優秀賞を獲得！

二月六日にNPOカタリバが主催するマイプロジェクトアワード(昨年までは高校生のみが対象)の、全国中学生大会が初開催されました。五ヶ瀬中等教育学校が事務局となり、全国の中高一貫校などが参加しましたが、本校の代表生徒四名(谷口紗雪、谷川向日葵、竹尾純美鈴、橋口紗季)が、審査員推薦賞(最優秀賞)獲得という快挙を成し遂げました。



文化系(絵画)の力で地域に貢献するプロジェクト「FutureWeWant」として、壁画看板やポスター、紙芝居等の取組を発表しました。

▼並み居る有名校を抑え、第三グループで最優秀賞を獲得！



新しいと学

# キャリアみらいゼミを実施！



中村恵子教頭先生

原口愛莉さん（普通科文理コース）  
杉田光優さん（情報ビジネス科）



ゲスト

伊東修司さん（市役所建設課）  
山路将生さん（オーダースーツ）  
脇元優香さん（KOKOKARA）

## ◀オープニングトーク ▼職業人講話



本校ではこの一年、新年度から本格的に行う予定の「新しいと学」の先行的トライアルに取り組んでいます。二月三日は、一年生対象のプログラム「キャリアみらいゼミ」を、三納中との合同学習という形で行いました。最初に、市教委・新垣智規主査、県教委・黒木知佳指導主事、三納中・曾我部校長、高田教諭によるオープニングトークを行い、キャリア教育の意義を語っていただきました。その後、妻高校の村教頭、三年生の原口愛莉さん、杉田光優さんに参加していただき、高校とはどんな所なのか、どのような学びが自分の成長を促すのかについて対話的に学びました。午後からは市内の三人の社会人の方々から、西都で暮らし・働く魅力を学ぶこともできました。一年生達が、真剣に話を聞き、メモをとり、自分の考えをまとめていく姿が印象的な学びの時間となりました。

# 2年生でのキャリア教育+立志式！



（株）サンワードラボ代表取締役・長友まさ美氏の講話



学校評議員がオンライン授業視察



神崎先生による  
考えて議論する道徳の授業  
(ICTも活用)

本校では、二年生において、今の自分と向き合い、自分の将来の夢や自己実現を考え「立志式（立志のつどい）」を行っています。今年はコロナ禍のために保護者の皆様や来賓の方々の参加を見合わせておりますが、生徒たちは自分の自己実現を多様な視点からしっかりと考え始めています。その一助となるよう、様々な講師の方々によるキャリア教育講話を実施しています。二月七日には企業の人材育成研修などで活躍している長友まさ美さんにオンラインで登場していただきました。また、二月十七日には、神崎先生が考えて議論する道徳の授業に挑戦し、車いすのシンガーソングライター・真北聖子さんを取扱い、本人にもオンラインで登場していただきました。

お二人からは「学び続け、問い続けること」「他人との比較から共創へと考え方を変えること」「異なる才能の人たちがそれぞれの魅力を生かし、幸せな社会を創ること」「失敗を学びに変えアップデートし続けること」「あきらめずに挑戦し続けること」などの言葉をいただき、生徒たちもこれから幅広い生き方をしていく上での参考にしていくことができました。

# 郷土紙芝居を制作中！

穂北小の4年生に読み聞かせをしました。聴く態度がとても立派なのに感心しました。

穂北中ではこのたび、優れた農業遺産と児玉久右衛門の偉業を伝承すべく、紙芝居「杉安井堰物語」を制作しました。もともと、元妻高校の美術の先生が描かれた絵を用いた説明文が杉安の郷土資料館に（穂北小の玄関にも）展示してあるのですが、それを、小学生にも分かり易い文章にしたり、20枚の絵を12枚にまとめたりしながら、現代風の紙芝居へとリニューアルしたものです。

穂北小学校のご厚意で、早速

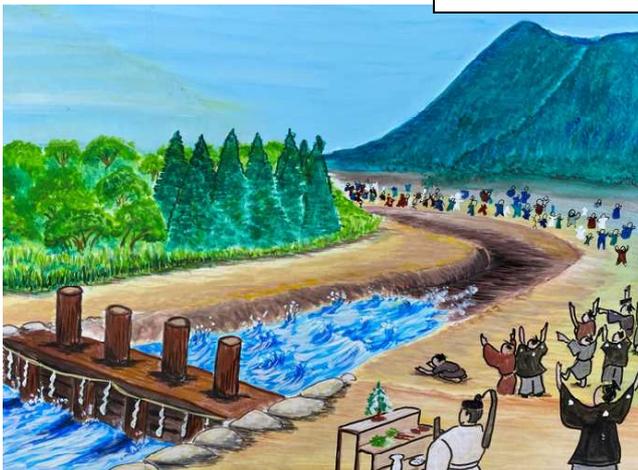


穂北小での読み聞かせ 1/20

一月に読み聞かせの体験をさせていただきましたが、これを機会に、今後も読み聞かせなどを本校生徒のプロジェクトにしていきたいと考えています。現在、第二弾の「記紀の道・コノハナサクヤヒメ物語」を制作中で、両紙芝居ともに、生徒が英語訳も行っており、今後は、小学生・幼稚園児や地域の方、外国人向けにもプロジェクトを拡大していく構想です。動画版も作成しますので、ぜひ各方面にご披露したいと思います。



作成した紙芝居の一部



## 穂波の壽き田の里

### 学区区散策

前回、久野分校を調べる際

に改めて感じたことだが、穂北中の校区は格段に広い。令和の今では在籍生はいないものの、一ツ瀬ダム近くの瓢箪淵や尾八重地区なども本校の校区である。確認できる資料では、旧東陵地区生徒の在籍は、H20が最後のようである。尾八重・有楽椿の里も校区内である。まだ見たことがなかったため、二月の休日に校区内散策にでかけてみた▼椿は、花の少ない冬でも美しい花を咲かせることから、日本では茶花としても重宝されてきた。中国産ツバキとヤブツバキとの交配種である有楽椿は、戦国武将で茶人の織田有楽斎(織田信長の実弟)の名に由来している▼ひむか神話街道とは尾八重川対岸の、尾根沿いの道を通り、旧小椎葉小近くから少し下った陽当たりの良い斜面に有楽椿の里はある。管理人の方に伺うと、椋木尾という所らしい。日之影町内にも六峰街道のすぐ下に同名の集落があるが、まったく同じようなランドスケープで驚いた▼樹高9mの椿を中心に、とても雅やかな庭園が整備されている。椿の見事さはもちろんだが、京都の西芳寺を彷彿させるような美しい苔庭が印象的な庭園である。椿の樹齢は推定五百年とあるから、ちようど茶の湯が広まり始めた頃の植樹と思われる、米良山の里に栄えていた往時の文化が偲ばれる、歴史的にも価値ある天然記念物と言える▼古来から親しまれている椿を詠んだ万葉集の歌をまねて：

椋木尾の つらつら椿 つらつらに

見れども飽かず 尾根の春野は (校長 伊東泰彦)



美しいピンクの一重花



見事なスギゴケが絨毯のように敷き詰められた日本庭園

先月号で久野分校のコラムを書いてみたところ、様々な情報提供があり、右のような写真に出会えました。たった2枚の写真ですが、在りし日の学校の様子が端的に表れていると思います。



在りし日の久野分校 (小中併設)



### 【3月の主な行事】

#### 3月

- 8・9日…県立高校一般入試
- 10日…3年生特別校時
- 11日…お弁当の日、送別行事
- 15日…卒業式練習
- 16日…第75回卒業式
- 18日…県立高校合格発表
- 25日…修了式
- 30日…離任式

分校では、遠くは木城町の檜という地区から山を二つ越えて片道10kmの山道を徒歩通学していた生徒もいたそうです。このように、通学自体が大変な久野分校では、学校で過ごす時間がいかに大切だったか言うまでもありません。宿題や課題などなく、先生も生徒も決して時間をおろそかにせず、一時間一時間の授業で勝負しながら、町場の学校にひけをとらない成績を収めていたそうです。

分校の存在から学ぶことはたくさんあり、背筋の伸びる思いがしました。